

## 黒塩地区廃棄物最終処分場建設計画に係る確認事項への回答について

### 1 搬入される廃棄物

- ① 許可を得ている廃棄物のうち、当該施設で取り扱わない廃棄物は何か  
回答) 「動物のふん尿」「動物の死体」は、取り扱いません。

- ② 中間処理した廃棄物以外はどのようなものが搬入されるか

回答) 「石綿含有廃棄物」「廃石綿等」については、熔融以外の中間処理が廃棄物処理法において認められておりませんので、これらは中間処理工程を経ることなく搬入されます。

また、排出事業者から排出される時点でリサイクルに向かない「汚泥」や「鉍さい」などが、中間処理工程を経ることなく搬入されることとなります。

- ③ 埋立基準以上の廃棄物が搬入された場合、または搬入されていたことが判明した場合にどのように対応するのか

回答) 廃棄物を排出される事業者と廃棄物処理委託契約を行うにあたっては、現物を確認したり、分析結果や WDS (廃棄物データシート)、SDS (安全データシート) などの排出事業者から提供される情報をあらかじめ確認するなどして、当社が許可を受けている廃棄物の種類に該当し、法令で定められている埋立基準を満たす廃棄物であることを確認いたしますので、埋立基準以上の廃棄物が搬入されることはありません。

埋立基準以上の廃棄物が搬入される場合とは、当該廃棄物を排出された事業者が故意に、または不可抗力により、埋立基準を超える有害物質を含む廃棄物の処理を当社に委託した場合に限られます。そのようなことが万一判明した場合は、佐賀県や貴市及び関係地域にご報告するとともに、佐賀県のご指導のもと適切に対応いたします。想定される対応としては、当該廃棄物を掘り起こして排出事業者に戻却するとともに、当社が被った損害を弁済いただくものと考えております。

### 2 施設維持管理

- ① 側溝、調整槽等は、どれくらいの雨に耐えるのか

回答) 側溝は、149.9mm/h の降雨時に水路深さの 8 割までしか水位が上がらないように設計しております。水路の水深を最大限使用した時に、どこまでの大雨に耐える排水能力を有するのかという観点で申し上げると 206.3mm/h の降雨まで対応可能な設計をしていることとなります。

伊万里市周辺での過去の実績では、10 分間に集中的に降った雨が仮に

1時間継続すると仮定した場合においても、以下のような数値となっており、溢れない設計になっていると考えております。

#### 過去実績

- その1 : 伊万里市の観測史上最大1時間降雨強度  
99mm/h (2006年9月16日)
- その2 : 令和3年豪雨(武雄市高橋観測所)の最大1時間降雨強度  
76mm/h (2021年8月14日)
- その3 : 全国の観測史上最大1時間降雨強度  
153mm/h (1982年7月23日:長崎県長崎市長浦岳)

次に、浸出水(廃棄物に触れた水)を一時的に貯留する能力としては、浸出水調整槽容量が6,000m<sup>3</sup>、処分場内における内部貯留可能量が約24,000m<sup>3</sup>、合計で最大30,000m<sup>3</sup>の浸出水を貯留できる能力があると考えております。

上記の豪雨災害があった場所とその1年の降雨データを用いて、水理計算をした結果、浸出水の最大貯留量は以下のとおりであり、最大貯留量に対して一定の余裕があるため、今後の豪雨災害においても未処理の水が伊万里湾に流れることはないと考えております。

#### 過去実績

- その1 : 佐賀県伊万里市 2006年 浸出水最大貯留量 4,542m<sup>3</sup>
- その2 : 佐賀県大町町 2021年 浸出水最大貯留量 12,331m<sup>3</sup>
- その3 : 長崎県長崎市 1982年 浸出水最大貯留量 12,392m<sup>3</sup>

#### ② 搬入車両により遮水シートが破損しないか

回答) 法令の基準を満たす二重の遮水シートと遮水シートの損傷を防ぐ保護マットを敷設した後、厚さ50cmの土砂を敷いた後に、廃棄物の埋立作業が行われますので、搬入車両のみならず、埋立作業を行う重機や廃棄物自体によっても遮水シートが破損することのないような埋立方法となっております。

#### ③ 地滑り発生時に遮水シートが破損しないか

回答) 遮水シート敷設エリアで地滑りが発生すれば、遮水シートへの影響が及ぶこととなりますので、最終処分場の営業開始後に地滑りが発生しないよう、適切な造成工事を行ないます。

#### ④ 悪臭、粉塵が発生しないか

回答) 受入れする廃棄物の性状を事前に把握して悪臭が発生しないように適切に埋立処分するとともに、1日の埋立作業終了後には廃棄物に土を被せる

ことにより悪臭が発生することはないと考えております。

なお、必要と判断すれば、脱臭設備等の追加対策を速やかに実施することにより、地域のみなさまにご迷惑をお掛けするような悪臭が発生することのないように、しっかりと運営管理をいたします。

次に、粉塵対策として、埋立作業中は随時目視による監視を行うとともに、廃棄物の車両からの荷降ろしの際には、散水車による散水を実施することで廃棄物や粉塵の飛散を抑制いたします。また、廃棄物運搬車両が場外に退出する際は、タイヤ等に付着した廃棄物や土砂を場外に持ち出さないよう、車両洗車設備を設置して、道路への持ち出しによる粉塵の飛散を防止いたします。

⑤ 積み上げられた廃棄物が、崩壊することはないか

回答) 最終処分場の法面は、高さ 5m ごとに小段が設けられます。

法面高さが 5m 以下の場合において「安定勾配」とされる 30° 以下の勾配で造成しますので、崩壊することはありません。なお、崩壊しないことを安定計算により確認しております。

⑥ 新たな安全対策を講じる考えはあるか

回答) すでに説明会で説明させていただいておりますが、浸出水処理施設で浄化後の水を放流する前に、COD や全窒素、全リンは現場で分析計により分析し、基準を満たしていることを確認してから放流するシステムを導入いたします。

その他、当社が必要と考える安全対策が新たに発生した際は、適切に講じてまいります。

⑦ ゴミの山に見えないような景観対策をどう行うか

回答) 最終処分場の造成中に、埋立地内の廃棄物が直接見えてゴミの山に見えるようなことはありません。なお、最終処分場の法面は、種子吹付による緑化を行なう計画です。

### 3 運搬業者

① 搬入車両は 1 日最大何台か

回答) 搬入台数は 1 日平均で 10 台程度であり、日によって変動するため最大 20 台程度と考えております。一時的に搬入台数を増やしたいような事態が発生した場合は、事前にご相談させていただきたいと考えております。

② 搬入車両の公道通行時に粉塵が発生しないか

回答) 搬入車両は、廃棄物を積んでいる荷台にシート掛けを行なうなどにより、廃棄物の飛散防止措置をとるため粉塵は発生いたしません。

- ③ 搬入車両の通行ルート等を限定するなど、規制するつもりはあるか  
回答) 通行ルート等の限定について、今後立ち上げられると伺っている対策協議会のなかで協議させていただきたいと考えております。

#### 4 事故発生時の対応

- ① B C P (事業継続計画) はどう考えているか  
回答) 当社の親会社である大栄環境株式会社において策定している「大栄環境グループ事業継続計画書」に基づき対応する予定で考えております。

- ② 被害発生時の補償は確実にされるのか

回答) 万一、当社によって利害関係者へ被害を与えた場合、当社の親会社である大栄環境株式会社とともに、補償を確実に行います。

#### 5 その他

- ① 市が考える関係地区と環境保全協定を締結する考えはあるか

回答) 貴市が考える関係地区は黒川町及び牧島地区と理解しておりますので、環境保全協定を締結いただけるのであれば、締結させていただきたいと考えております。

- ② 埋立期間中における地域振興策はどう考えているか

回答) 今後立ち上げられると伺っている対策協議会のなかで、地域振興策の内容について協議させていただきたいと考えております。

- ③ 埋立完了後の跡地活用はどう考えているか

回答) 埋立期間が 20 年と長期にわたりますので、埋立完了が近づいてきた段階で、今後立ち上げられると伺っている対策協議会のなかで、協議させていただきたいと考えております。